

- ・当県では、県育成品種の早生茶豆「新潟系14号」の作付拡大による茶豆品種の継続出荷を推進している。
- ・このため、保温及び雑草の発生抑制のためのマルチ被覆と、播種作業を一工程で行うマルチ播種機を用いた直は栽培技術を、「新潟系14号」で確立し、新技術の導入を進めることで実需の求める品質及び量の確保による農家所得の向上を目指す。

新品種・新技術等の概要

1 新品種

○県育成早生茶豆「新潟系14号」(新潟県:2014年)

露地作型で7月中旬からの出荷が可能、大莖が特徴で呈味成分含有量も多く、食味評価は高い。

2 新技術

○耕うん同時畝たて作業機によるエダマメマルチ直播技術
(農研機構:2008年)

マルチ被覆と播種作業を一工程で行うことで、発芽の安定や雑草抑制が可能で、作型の前進化が図れる。



主な取組内容

1 実証ほの設置

- ・県内4カ所で実証ほを設置

2 検討会の開催

- ・中間及び成績検討会の実施

3 実需者への意向調査

- ・試食サンプルを送付しリモートによる意見交換の実施

4 栽培マニュアルの作成

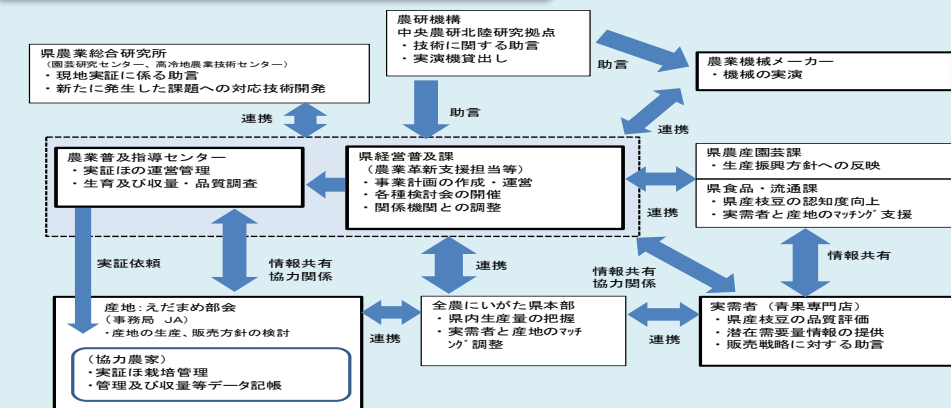
- ・取組1年目として暫定版マニュアルを作成



收穫時の株姿

播種作業

实施体制図



課題と今後の対応

1 実証結果の概要

- ・マルチ被覆による発芽の安定、収穫時期の前進化、収量の増加を確認した。
- ・碎土率が低いほ場では、発芽率が劣る傾向で排水対策や事前耕のタイミングが重要であると判断された。

2 2年目の取組

- ・実証ほを新たに3か所追加し、取組拡大を推進
- ・早い時期の播種も行い、更なる前進化も検討
- ・排水対策や事前耕の方法についてマニュアルに掲載予定